

ルーブリックの使い方ガイド

ルーブリックとは

ルーブリックとは学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、観
点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価
ツールを指します。

評価の基準

評価の
観点

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
B 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
C プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
D 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

表1:プレゼンテーションに関するルーブリック

目次

- ルーブリックとは
- ルーブリック活用の意義
- ルーブリックの種類
- ルーブリック活用のタイミング
- ルーブリック活用の前提
- ルーブリックサンプルのダウンロード
- 例1) 初年次教育におけるレポートルーブリック
- 例2) 論証型のレポートルーブリック
- 例3) 理工系実験レポートに関するルーブリック

ルーブリック活用の意義

■パフォーマンスを評価するために有効です。

授業には、○、×だけで授業の目標を評価できない学習課題があります。たとえばレポートやプレゼンテーションなどです。これらの課題はこれまで学んだ知識やスキルを統合して使うことが求められる複雑な課題であり、パフォーマンス課題ともよばれています(西岡他2015)。学習者のパフォーマンスを評価するためにルーブリックは適しています。

■学生が学習活動における方向性を理解し、授業目標を達成できたのかを判断するために有効です。

【評価の観点】や【評価の基準】を提示することで、学生はレポートやプレゼンテーションにおいて何が求められているのかを具体的に把握できます。目指すべき方向性が明らかになると、学生が現在の自分のレベルを確認でき、より高い目標を達成するために何が必要になるのかを考えることもできます。結果として、成果物がより優れたものになる可能性も高まります。

実際にルーブリックを活用する際には、学生がルーブリックの内容を理解することが大切です。具体的な説明、触れるべき点や完成の程度などを記述し、どういう条件で評価するのかを明示することで、学生は何に配慮すべきかを確認した上で、活動できます。

■学生のリフレクション能力をのばす際に有効です。

学生が自らの評価と教員による評価の違いを知ること、学習目標が達成できている部分とそうでない部分を具体的に把握できます。学生がルーブリックをもとに自らの活動を反省的にふりかえることは、学習を次のステップへとつなげていくためのきっかけになります。

■複数人数で担当する教科において評価の質を保つために有効です。

大学には初年次教育や情報処理演習などある科目を複数の教員で担当する授業があります。

ルーブリックを活用することで、ある一定の評価の観点と基準に基づいた評価を行うことができます。

ルーブリックの種類

ルーブリックにはいくつかの種類があります。まずは課題ルーブリックです。これは授業内で提示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックを指します。

次に科目ルーブリックです。これは授業科目の目標をルーブリックで示したものです。最後にカリキュラムルーブリックです。これはカリキュラム全体に対して作成したルーブリックです。

カリキュラムルーブリック

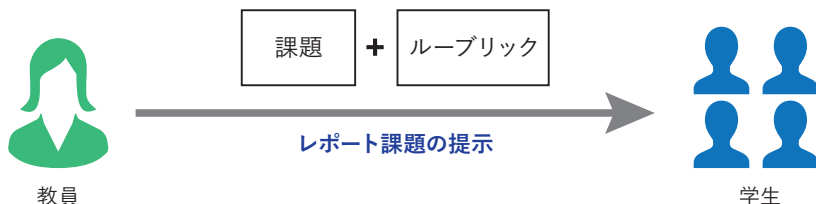
科目ルーブリック

課題ルーブリック

ルーブリック活用のタイミング

■レポート評価に活用する場合

レポート課題を出す際に、学生にルーブリックを配付します。学生は、評価の観点や基準を参照することで、必ず執筆すべき点や完成の度合いを確認したうえでレポートを執筆できます。



■プレゼンテーション評価に活用する場合

プレゼンテーションをする前に、学生にルーブリックを配付します。学生は、プレゼンテーションで発表すべき点や配慮すべき点を確認できます。また聞き手は、ルーブリックをもとに発表学生のプレゼンテーションを評価できます。

■評価時の活用方法

評価者は、提出されたレポートに対して該当する部分を丸で囲みます。学生が自分で採点したルーブリックをレポートと共に提出することで、教員は学生の自己評価を確認できます。

商16-0000 関大太郎

観点	説明	4	3	2	1
A 適切なテーマ設定	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。
B 主張の明確化	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、データや先行研究から探している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、データや先行研究から探している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、データや先行研究から探している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、データや先行研究から探している。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、データや先行研究から探している。
C 論理的なストーリー	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、理由に論理的な展開力がある。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、理由に論理的な展開力がある。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、理由に論理的な展開力がある。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、理由に論理的な展開力がある。	主張したい事項に対する理由と論点を明確にし、理由に論理的な展開力がある。

ルーブリック活用の前提

- ・評価の観点を具体的な文章で表現できることがルーブリック活用の前提条件となります。
- ・ルーブリックを適切に活用するためには、学生が評価の観点、評価の基準を十分に理解する必要があります。そのため、ルーブリックを利用する前に学習者に利用方法を説明する必要があります。
- ・本ガイドブックで例示しているルーブリックは、汎用性を持たせるために「十分な」「明確な」「効果的」といった表現を用いていますが、授業の目的に応じて学生が理解しやすい具体的な文言を用いるとより効果的です。各レベルに該当するレポートのサンプルを提示することも有効です。
- ・ルーブリックはあらかじめ設定した観点や尺度を評価するため、評価項目が限られてしまうという課題がありますのでご注意ください。学生のパフォーマンスが良すぎて、観点や尺度に収まりきれない場合もあります。

ルーブリックサンプルのダウンロード

現在、教育開発支援センターで提供しているのは課題ルーブリックです。ルーブリックの例をインフォメーションシステム「データ管理／文書ライブラリ (Webフォルダ)／ルーブリック (初年次教育)」に掲示しております。適宜ダウンロードしてご活用ください。

もっとも簡単な活用方法は、次ページ以降に示す①教育開発支援センターが開発したルーブリックをそのまま利用することです。そのほか、②教育開発支援センターが開発したルーブリックを適宜改変して使う、③授業科目に適したオリジナルのルーブリックを作成する方法もあります。先生方の授業目的に合ったルーブリックを選択(作成)いただくことが適切な評価をするために重要です。

例1) 初年次教育におけるレポートルーブリック

例1)のルーブリックでは、レベル4を超える優秀なレポートがあった際に直接コメントを述べる事ができる欄を設けています。また評価の観点以外の事柄も記述できるようにメモ欄を設けています。

観点	説明	4+	4	3	2	1
A 意見の提示	自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか。		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
B 資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか。		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
C 文章全体の構成	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか。		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
D 議論の展開	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか。		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見をわかりやすく論理的かつ明確に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

メモ

表2: 初年次教育におけるレポートルーブリック

例2) 論証型のレポートルーブリック

例2)のルーブリックでは、ルーブリックの項目に加えて、チェックリストを設け学生が自己チェックをしたうえで、レポートの完成度を確認できるようにしています。また、特に重視してもらいたい箇所に下線を引くなどし、目立たせています。

観点	説明	4	3	2	1
A 適切な テーマ設定	課題に応じて適切なテーマ設定がなされているか。	課題に応じて適切なテーマ設定が <u>簡潔かつ明確</u> になされている。	課題に応じて適切なテーマ設定がなされている。	課題に応じたテーマ設定がなされているが、 <u>切り口が安直である</u> 。	課題に相応しくないテーマ設定がなされている。
B 主張となる 根拠の成立	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せているか。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から <u>必要かつ十分な形</u> で探し出せている。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せている。	主張したい事柄に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出せているが、 <u>出典が明記されていないものがある</u> 。	データや先行研究にあらずに主張がなされている。
C 論理的な ストーリー	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に説得力があるか。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に <u>極めて十分な説得力</u> がある。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に説得力がある。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記しているが、 <u>論理に飛躍があるため十分な説得力をもたない</u> 。	理由を述べない形で主張が展開されている。

表3: 論証型のレポートルーブリック

チェックリスト(形式)

- 表紙にタイトル、学籍番号、氏名、科目名、担当教員など教員から指定された事柄を記載している。
- 口語表現(話し言葉)を使っていない。
- 文体を「である調」もしくは「ですます調」で統一している。
- 一文が三行以上にわたる長文はない。
- 段落の書き出しは一マスあけている。
- 段落の長さが適切である。
- 一文一義としている。
- 他人の意見と自分の意見を区別している。
- 参考・引用文献の出典を指示された形式(リスト)にして、文末に明記している。(指示がない場合でも文章内で統一している)
- 誤字・脱字がなく、声に出しても正確に文章を読み取れる。(音読することで、誤字脱字や一文の長さや構成に関する改善点に気づくことができる)

例3) 理工系実験レポートに関するルーブリック

観点	説明	4	3	2	1
A データの比較	課題に応じて適切なデータの比較がなされているか。	課題に応じて対照実験、予想との比較に加えて、計算値との比較がなされている。	課題に応じて対照実験との比較に加えて、予想との比較がなされている。	課題に応じて対照実験の結果との比較ができています。	課題に相応しくないデータの比較がなされている。
B 仮説の生成	実験データや先行研究から仮説を導き出せているか。	実験データや先行研究から順位付けをして仮説を何通りか立て、各仮説が成立する前提・条件を記述している。	実験データや先行研究から仮説を何通りか立て、その順位付けをしている。	実験データや先行研究から仮説を何通りか立てている。	データや先行研究にあらずに仮説の生成がなされている。
C 仮説の検証	実験データや先行研究から根拠を明記し、仮説の検証に説得力があるか。	実験データや先行研究から根拠を明記し、複数の仮説に対して優先順位を検討し、具体的な検証方法を提示して仮説を検証している。	実験データや先行研究から根拠を明記し、複数の仮説に対して優先順位を検討し、仮説を検証している。	実験データや先行研究から根拠を明記し、仮説の検証をしている。	実験データや先行研究から根拠を明記しておらず、仮説の検証に説得力がない。

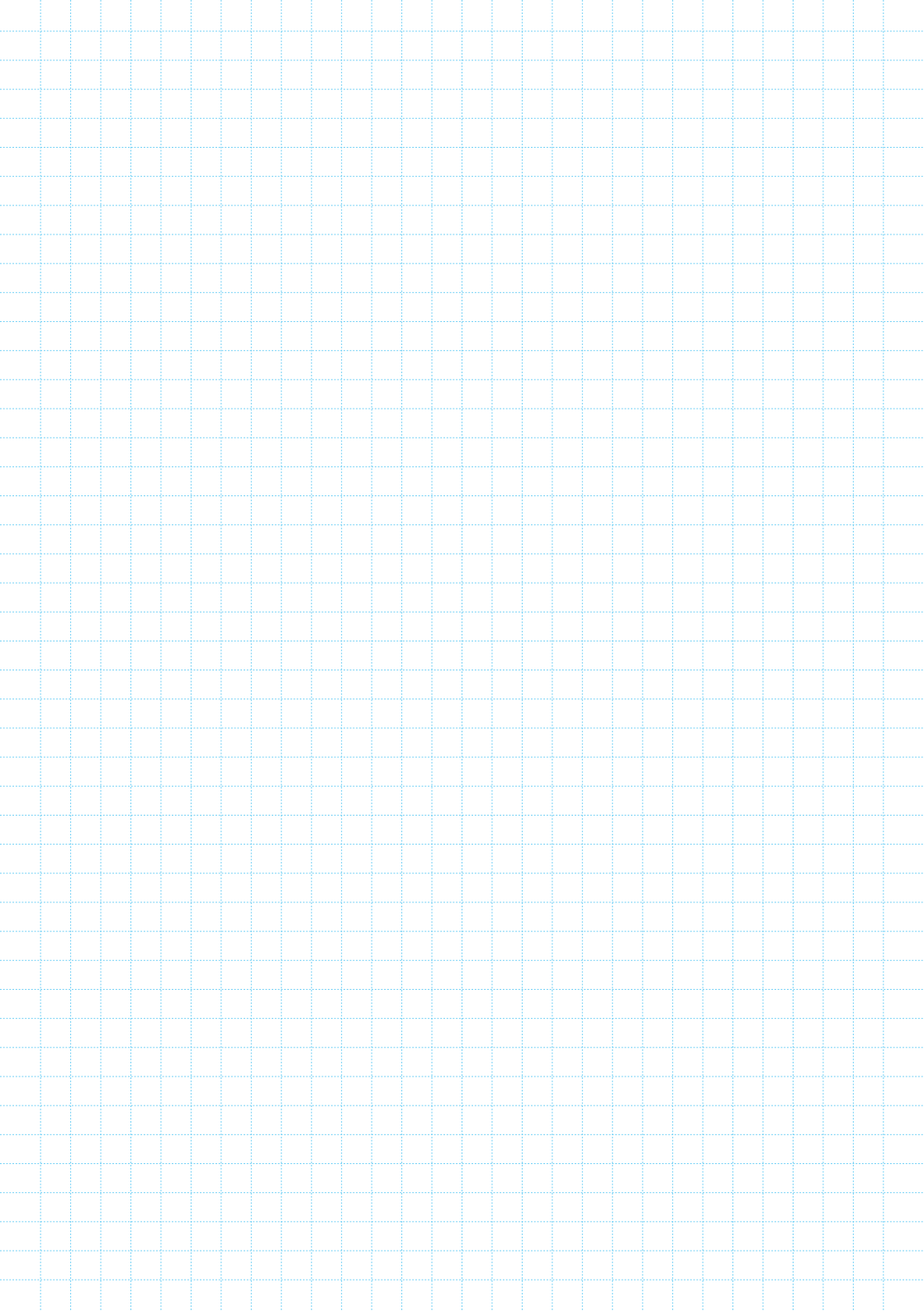
表4: 理工系実験レポートに関するルーブリック

チェックリスト(内容)

- 実験方法:第3者がレポートをみて、その行った実験を再現できる形で記述がなされている。
- 実験結果:実験によって得られた結果を文章で記述し、図表を活用して整理している。
- 実験の考察:実験で得られた値と予想される値(計算値や文献値)を比較し、考察している。
- 実験の考察:実験値の標準偏差を求めるなどして、実験の誤差を考慮している。
- 実験の考察:実験中に気づいた疑問点、新たに発見した点などについて、これまでの文献との関連を踏まえた上で、自分なりの結論を記述している。

チェックリスト(形式)

- 表紙にタイトル、学籍番号、氏名、科目名、担当教員、実験日など教員から指定された事柄を記載している。
- 口語表現(話し言葉)を使っていない。
- 文体を「である調」で統一している。
- 段落の書き出しは一マスあけている。
- 段落の長さが適切である。
- 一文一義としている。
- 先行研究の知見と自分の意見を区別している。
- 参考・引用文献の出典を指示された形式(リスト)にして、文末に明記している。(指示がない場合でも文章内で統一している)
- 誤字・脱字がなく、声に出しても正確に文章を読み取れる。(音読することで、誤字脱字や一文の長さや構成に関する改善点に気づくことができる)
- 元素記号や用語を正確に書いており(例:pH→○、PH→×)、略語を使う場合は説明をしている。
- グラフや表を作成した際、通し番号・表題をつけており、レポートの記述では番号と記述を対応させている。
- グラフの選び方(棒グラフ・折れ線グラフ等)が適切で、グラフに軸名称や単位が書かれている。



参考文献:西岡加名恵、石井英真、田中耕治(2015)、『あたらしい教育評価入門』、有斐閣コンパクト
執筆者:岩崎千晶(教育推進部 教育開発支援センター 准教授)



平成26年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択
21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成

大学教育再生加速プログラム

関西大学 教育推進部

教育開発支援センター (CTL: Center for Teaching and Learning)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

千里山キャンパス 第2学舎1号館1階

E-mail ap-info@ml.kandai.jp

教育開発支援センター <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/>

AP取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>

発行日／2016年11月15日 編集・発行／関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

Copyright © Kansai University. All Rights Reserved.

関西大学の先生は自由にご利用ください。